

動物との共生考えて 南富良野高で旭山園長が講演

[南富良野高で講演した坂東園長](#)



【南富良野】旭川市旭山動物園の坂東元園長の講演会が南富良野高で開かれた。道内で人間の生活圏にクマやシカの出没が相次ぐ現状について「人の態度や行動を観察して、距離を詰めてきている」と説明し、人と野生動物の共生について考える必要性を訴えた。

同高が力を入れるアウトドア教育の一環で人と動物の共存などを生徒が学ぶ目的で11日に実施。生徒と町民ら計約80人が来場した。

坂東園長は、シカの推定生息数が増加傾向にあるのは、「かわいそう」といった愛護の考え方などの要因で駆除施策が後手に回ったと指摘。また、クマについても、1990年から残雪期の「春グマ駆除」廃止などに伴い、「クマにとって人が警戒すべき対象から外れた」と推測した。

自然界は「動物どうしの陣取り合戦」と説明し、「過疎化などで人間の影響力が低下したことがシカやクマの目撃情報の増加に影響している」と分析した。

講演を聞いた南富良野高2年の猪口紗希さん(16)は「共存の難しさを感じた」。同高2年に加藤久陽さん(17)は「授業で山や森に入ることもあるので動物との適度な距離感を知る上でとても参考になった」と話した。(相武大輝)